

〈論文〉

北海道高等学校英語教育研究会  
(高英研) 発足から今日までの概要

久野政人

1 北海道における高等学校の英語教育研究推進に関わる組織について

(1) 北海道高等学校長協会英語部会 (校長協会英語部会)

北海道高等学校長協会には、教科等に関する部会として普通部会を始めとして、職業学科 (農業, 工業, 商業, 水産, 家庭, 看護, 福祉) と専門学科 (英語, 体育, 理数) において11の部会が設置されている。英語に関しては「英語部会」が設置されており、その構成は、①公私立の英語科・国際科設置校, ②英語コース設定校や第2外国語実施など特色ある外国語実施校からなり、平成21年度は18校で組織されている。また、上部組織として「全国高等学校英語科・国際科設置校協議会」があり、本会が北海道ブロックとして位置している。従って、設立趣旨から言って全道的な高等学校英語教育の推進というよりは英語科・国際科の維持・発展をどのように推進するかが主たるものとなっており、平成19年度から「英語科・国際科の将来像に係る検討委員会」、平成21年度から「英語科・国際科の授業改善に向けた調査研究委員会」が立ち上げられそれぞれ研究が進められている。

(参考資料1 平成21年度北海道ブロック高等学校英語科・国際科設置校協議会役員・加盟校一覧)

(2) 北海道高等学校教育研究会英語部会 (高教研英語部会)

道内の高等学校英語教育推進に関わる研究会組織として同じく校長協会が設立した「北海道高等学校教育研究会 (高教研)」(札幌旭丘高等学校に事務局が固定) があり、各教科部会の一つとして英語部会がある。毎年1月に初日「全体会」、2日目「各教科部会」が開催されている。年度当初に全道の高等学校教員を対象に参加者を募り、

研究会の開催（今年度第47回大会）と研究紀要の発行を行っている。今年度の参加登録者数は3,049名、その内、英語部会登録者数は419名となっている。

近年、研究大会の運営するに当たっては、当番校事務局校がその中心となることは当然として、研究会の企画や直接の運営には札幌市内校の英語教員を中心とした十数名からなる「運営委員」がその実務に当たり、安定的な運営がなされている。

### （3）北海道中学校・高等学校英語教育研究会（中高英研）

この研究会が実施する研究大会は、毎年札幌市を会場として1日日程で開催されており、今年度で第52回の大会が行われている。主催が北海道中学校・高等学校英語教育研究会ということからも分かる通り、両研究会の協催となっている。研究大会事務局は隔年で中学校と高校が交互に行い、大会に関わる諸業務を運営している。これまでの経過を見れば、先行して中学校英語教育研究大会があり、その後高校が協催として合同の研究会として拡大発展を遂げてきている。これまで、主として札幌市内の中・高の英語教員が参加することが多かったが、近年広く認知されてきていることにより道内各地からの参加者も増えてきている。

研究大会の内容としては、隔年での中学校、高等学校の研究授業の公開、道内外の著名な英語教育研究者による講演、中・高の英語教員からの研究発表と研究協議などが活発に行われている。

### （4）北海道高等学校英語弁論大会（英弁大会）

昭和40年代に、全道各地の英語教員有志のもとで、またアメリカンセンター主催の英語弁論大会が開催されていたようであり、その後、北海道英語教育研究会主催で昭和55年に第1回大会が開催された。この間「梅津奨学院」協賛により全面的な財政援助と企業・団体からの寄付金により実施継続されている。高英研設立後の平成2年からは高英研が大会を引き継ぎ、全道各地の予選大会を勝ち抜いた生徒たちが札幌市開催の全道大会に出場し、優勝者及び準優勝者の2名がその副賞として引率教員1名とともに海外視察研修をするという事業である。その後、7年度から同財団からの援助がなくなり、その後、英語管理職等からの財政的支援により当座海外視察は続けられたが、10年度からはその副賞はつけられてはいない。また、単独事業としての英語弁論大会としてではなく、次に記述する高文連国際交流部門へ吸収され実施されている。

(5) 北海道高等学校文化連盟国際交流専門部（高文連国際交流）

上記(4)で述べたとおり、「英語弁論大会」の継続実施を果たすには急激な環境変化があり、継続して実施するための模索が始まった。当時の関係者が文化系部活動としてのESS、英語研究部、国際理解部等の活動実績があることを受けて、高文連加入への道を模索した。加入条件の一つである支部設立を達成するため時間はかかったが、平成11年度には7支部が設立され、12年度加入承認となり今日に至っている。

活動内容としては、「英語弁論大会」「国際交流活動発表大会」の二本立てで行われてきていたが、平成20年度からは「国際交流活動発表大会」を「英語ディベート大会」に変えて実施している。

(6) 北海道高等学校LL研究会（後にメディア研究会）

道立高等学校のうち英語科設置校及び普通科5間口以上で設置を希望する学校には国及び道費によりLL（Language laboratory）が設置され、それらの学校を会員とする研究会が組織され、独自の財源を持って存続していた。時代の趨勢により、Callシステムに設備内容が変更される等により名称も「LL研」から「メディア研」に変えて研究が続けられていたが、その後廃止となった。

2 北海道高等学校英語教育研究会（高英研）発足の経緯

(1) 既に存在していた「校長会英語部会」では、その設立趣旨や名称では道内外の英語に関する研究諸団体等との連携が上手くいかないのではないかということ等から、当時の英語部会役員を中心として協議がなされ、「北海道高等学校英語教育研究会」を設立すべく準備に入り、平成元年度当初の全道高校長協会総会の審議を経て初代会長に山口茂札幌稲雲高等学校長を迎え発足した。

※ 設立当時の会則（概要）

第1章 総則（名称・目的・組織）

第2章 事業（英弁大会・中高連携の研究会・研究講演会の開催・調査研究成果の発刊・その他目的に役立つ諸事業）

第3章 組織及び役員

第4章 支部（道央・道南・道北・道東）

第5章 機関（総会役員会事務局）

第6章 会計等

(2) 高英研設立の前年度には、樋口隆士札幌北高等学校長（校長協会会長）を初代会長として「高等学校英語教育懇話会（高英懇）」が設立され、高英研と表裏一体的な役割を担うこととなった。英語に関わる各研究会等は札幌市での開催が中心であることから、担当する当番校は札幌を中心とする石狩管内の高校で行うことが多い状況であった。しかし、英語科校長が存する高校がない場合やいても極少数である場合が続き、研究会の成果を更に高めるためにはこのような状況を変える必要性に迫られていた。設立された懇話会役員等により札幌市内（石狩管）への英語科校長配置に向けての努力が積み重ねられてきている。

懇話会の事業としては、総会が5月と1月の年2回開催され、会員である全道の英語科校長、教頭、行政担当者（英語指導主事等）が一堂に会して情報交換や会員相互の親交を深める場となっている。また、「高英懇だより」、「高英懇フォーラム」の発行等を通じて本道の高等学校英語教育の発展に資する活動を進めてきている。

(3) 高英研の組織・運営については、「高教研英語部会」「中高英研」「メディア研（旧LL研）」「高文連国際交流部門」の4部門を担うため、平成13年度に当番校事務局グループを石狩管内の高等学校を4グループ化し、各グループ内の高等学校が順次引き受けるようローテーションが作られた。しかし、教科の研究会としては英語科校長の存する高校が当番校事務局を引き受け運営に当たることが望ましく、必ずしもそういった状況とは成らないことが多く、折角作ったローテーションも上手く機能せず毎年度事務局校調整に当たらなければならない状況が続いた。

### 3 高英研組織改革の流れ

(1) これまで述べてきたように、「高英研」には、会そのものが独自に主催する研究会はなく、また独自の財源基盤もない状況が続いていた。財源的にみれば、「高教研英語部会」は高教研本部からの予算が措置され、「中高英研」は主として大会参加費での運営、「高文連国際交流部門」は道高文連からの運営費によって実施されている。唯一「メディア研」のみが独自財源を持っていたが、会そのものが存在していない。

平成13年度末、高英研役員の一人である千歳高校長の梶山優洋氏から「北海道高等学校英語教育研究組織再編への試案」（梶山試案）が出された。このことが当時の高英研役員の間で取り上げられ活発な議論を呼び、その後の改革に向けてのプロジェクト立ち上げに大きな影響を与えた。

(2) 「梶山試案」で示された内容

これまでの高英研の実態を分析し、「会長のみ存在し、独自の予算を持たない。また、研究会活動を行っている実態がない」「石狩管内を4ブロックに分け4つのメインとなる研究会を担う事務局校をローテーションさせているが、現実にはブロックに常時英語科校長が4名いることにはならず、平成13年度の最初のローテーションから破たんを来たす結果となっている」「支部活動の全道的な実態が把握されておらず、総括すべき高英研の役割が果たされていない」等が指摘された。

(3) 「組織等検討プロジェクト会議」・「同準備委員会」の立ち上げ

ア 平成15年6月、高英研会長である樋口暉純校長（札幌東陵高校）のもと、座長として深澤宗明校長（札幌国際情報高校）、岡田義明校長（鹿追高校）、坪田裕校長（中札内高校）、佐々木茂文校長（大樹高校）、久野政人校長（釧路北高校）の各委員が委嘱され検討が開始された。

12月には第一次答申として、「メディア研」の開催を隔年実施とすること、各管内で行われている英語研究会の実態把握に努め、数年をかけて高英研組織の全道組織化及び財政基盤の安定化を図ることが提案され、初年度としては検討すべきことの整理段階に終わった。

イ 平成16年6月、佐々木美喜雄会長（野幌高校）のもと、深澤宗明校長（札幌国際情報高校）、岡田義明校長（旭川北高校）、坪田裕校長（札幌稲北高校）、佐々木茂文校長（苫小牧南高校）、久野政人校長（釧路北高校）と前年度と同じ委員が委嘱され具体的な検討が加えられた。

9月に第二次答申が出され、「メディア研」の終了、新高英研として学校単位の参加、高英研大会の新設、管内ごとの支部設立と支援及び財政的な補助の実施、高英研会長と高教研英語部会長との兼務等が提案された。

ウ 平成17年度には深澤宗明高英研会長（札幌国際情報高校）、高久均副会長（札幌丘珠高校）のもと、座長に岡田義明校長（旭川北高校）、坪田裕校長（札幌稲北高校）、佐々木茂文校長（苫小牧南高校）、新たに村田政孝校長（遠軽郁凌高校）、佐藤嘉典校長（北見二頃）が委嘱された。検討すべき事項として、財政基盤について、独自事業の構想について、各管内の英語研究会との関係について、英語部会長校をどうするか等があげられ、基礎データ収集に努めた。全道の英語教員数と学校規模別一覧の作成、各都道府県の高英研組織の調査、道内他教科の研究団体の組織や財政基盤の調査、各管内の高英研組織の実態把握など精力的に調査研究活動に当たった。

11月に出された第三次答申では、新規事業の平成18年度実施の見送りと具体案作りをアクションプランの中で準備プロセスを明示、高英研加入方法の学校単位から個人単位に、校長協会英語部会長校を平成19年度から札幌国際情報高校に移すこと、会則改正案及び英語教育団体関係図の提示がなされた。

(参考資料2「北海道高等学校英語研究団体組織の概念図」)

エ また、17年度の高英研臨時校長会議に座長である岡田義明校長より新規事業として、旭川北高校の英語科研修会よりヒントを得た「授業の達人セミナー」構想とも言ふべき「北海道高等学校英語教育研究大会において実施するワークショップについて」が提案された。コンセプトは、英語教員の「授業力」の向上を図ることを目的に、ワークショップを開催し、指導力豊かな教員から指導技法(授業実践)を学び、授業力の一層の開発を図ることとした。「授業力」の定義としては、教員の資質能力のうち、特に実際の授業場面において具体的に発揮されるものを「授業力」と捉えた。「授業力」は①情熱、②生徒理解、③統率力の三要素を基盤に、④指導技術力、⑤教材開発力、⑥指導計画・評価計画作成の六つの要素により構成されたと考え、ワークショップは英語教員の「授業力」、特に指導技術力の向上を目的とした。

オ 平成18年度 岡田義明高英研会長(札幌国際情報高校)、牧野篤副会長(旭川北高校)のもと、「組織等見直し準備委員会」を立ち上げ、アクションプランを推進することになった。委員として、高久均校長(札幌丘珠高校)を座長に、小林直規校長(室蘭清水丘)、瀬戸正校長(岩内高校)、高橋誠校長(室蘭東翔高校)、遠藤龍一教頭(北広島高校)、釣晴彦教頭(千歳高校)が委嘱された。

次年度からの新組織樹立と新規事業のスタートが予定されたことから、全道の約1500名の公立の英語教員(管理職を含む)に対して「高英研組織等見直しに係るアンケート調査」を実施した。内容的には、高英研独自の研究大会に関わって、関心度、参加の意向、大会運営費、開催時期、ワークショップの内容、ワークショップの講師等についてである。管理職(校長、教頭)と一般教員とで若干の違いはあったものの、それぞれの項目で高い賛意が示され第1回高英研セミナーとしての開催につながる結果となった。

会員登録については個人登録、年会費を2000円と定め、仮登録を行いどの程度の規模になるか、予算規模がどの程度になるかなどの試行も行われた。

また、セミナーの中核である講師陣については英語科校長等からの推薦に基づいて、仮登録から本登録へと準備を進め、「講師委員会」を立ち上げた。

#### 4 新規事業「高英研セミナー」の実施

(1) 数年間にわたり組織等見直し検討作業を続け、ついに高英研としての独自の研究会として「高英研セミナー」を創設するに至った。よく言われていたように「夏の高英研、冬の高教研」が漸く実現する運びとなった。また、会員登録やセミナー講師の発掘については、高英研会長から校長協会組織である各管内支部長を通じて道内全ての高等学校に会の趣旨を始めとしてこれらのことについての依頼が周到に進められた。（参考資料3 平成21年度北海道高等学校英語教育研究会役員一覧）

(2) 第1回高英研セミナーは平成19年8月10日に札幌丘珠高等学校を会場に、「授業力向上ワークショップ」として開催された。午前・午後のワークショップをそれぞれ120分とし、講師数14名、14講座を設定し、200名の参加を得て成功裏に終了した。因みに、高英研に参加申込みをした数は403名であり、半数が参加する状況であり当初の見込みを大幅に上回る数となった。事務局校である札幌丘珠高校の運営努力や講師委員会の精力的な活動によって成し遂げられたと言える。

なお、セミナー終了後に、高英研役員、ワークショップ講師、一般参加者が一堂に会する場を設け、道内英語教員仲間としてのネットワーク作りや情報交換に大いに貢献する機会となっており、次年度以降もセミナー終了後に開催が引き継がれている。

(3) 第2回高英研セミナー「授業力向上ワークショップ」が前年同様札幌丘珠高等学校を会場に開催され、会員数500名、参加者数250名となり、講師数及び講座数もそれぞれ17と拡大傾向が見られた。初回の実施効果が極めて良いPR効果として機能したものと判断される。

(参考資料4 第2回高英研セミナーPR文)

(参考資料5 第2回高英研セミナー『授業力向上ワークショップ』アンケート結果及びアンケート用紙)

(4) 第3回高英研セミナーは札幌国際情報高等学校を会場に開催され、会員数450名、参加者数も156名と減少の傾向を示すなどの状況が見られた。セミナー開始から3年を経過し全道的には認知されてきた研究会と言える半面、会員の更なる増加やセミナー参加者増を図るにはこれまで以上のPR活動の活発化やセミナーそのものの工夫と内容的な深化が求められていると考えられる。

参 考

- 1 北海道高等学校英語教育研究会 ホームページ  
<http://koeiken.hokkaido-c.ed.jp>
  
- 2 歴代高英研会長回想録から
  - (1) 山口 茂 氏 「高等学校英語教育研究会の経緯」
  - (2) 市川 元則 氏 「国際交流専門部」
  - (3) 桜田 顯 氏 「新たな方向性を探る」
  - (4) 佐々木美喜雄 氏 「諸先輩に助けられて」
  - (5) 深澤 宗明 氏 「高等学校英語教育関係団体・組織の改善を目指して」
  - (6) 岡田 義明 氏 「高英研セミナーが生まれるまで」
  - (7) 佐々木茂文 氏 「北海道高英研セミナーをスタート、軌道に乗せるまで」
  
- 3 北海道高等学校文化連盟会誌（平成21年度版）から  
牧野 篤 氏（国際交流専門部長）



平成21年度北海道ブロック高等学校英語科・国際科設置校協議会役員・加盟校一覧  
 （北海道高等学校長協会英語部会役員・会員一覧）

1 役員

会長(部会長) 牧野 篤 北海道札幌国際情報高等学校長  
 副会長(副部会長) 遠藤 龍一 北海道千歳高等学校長  
 浅里 慎也 北星学園女子高等学校長

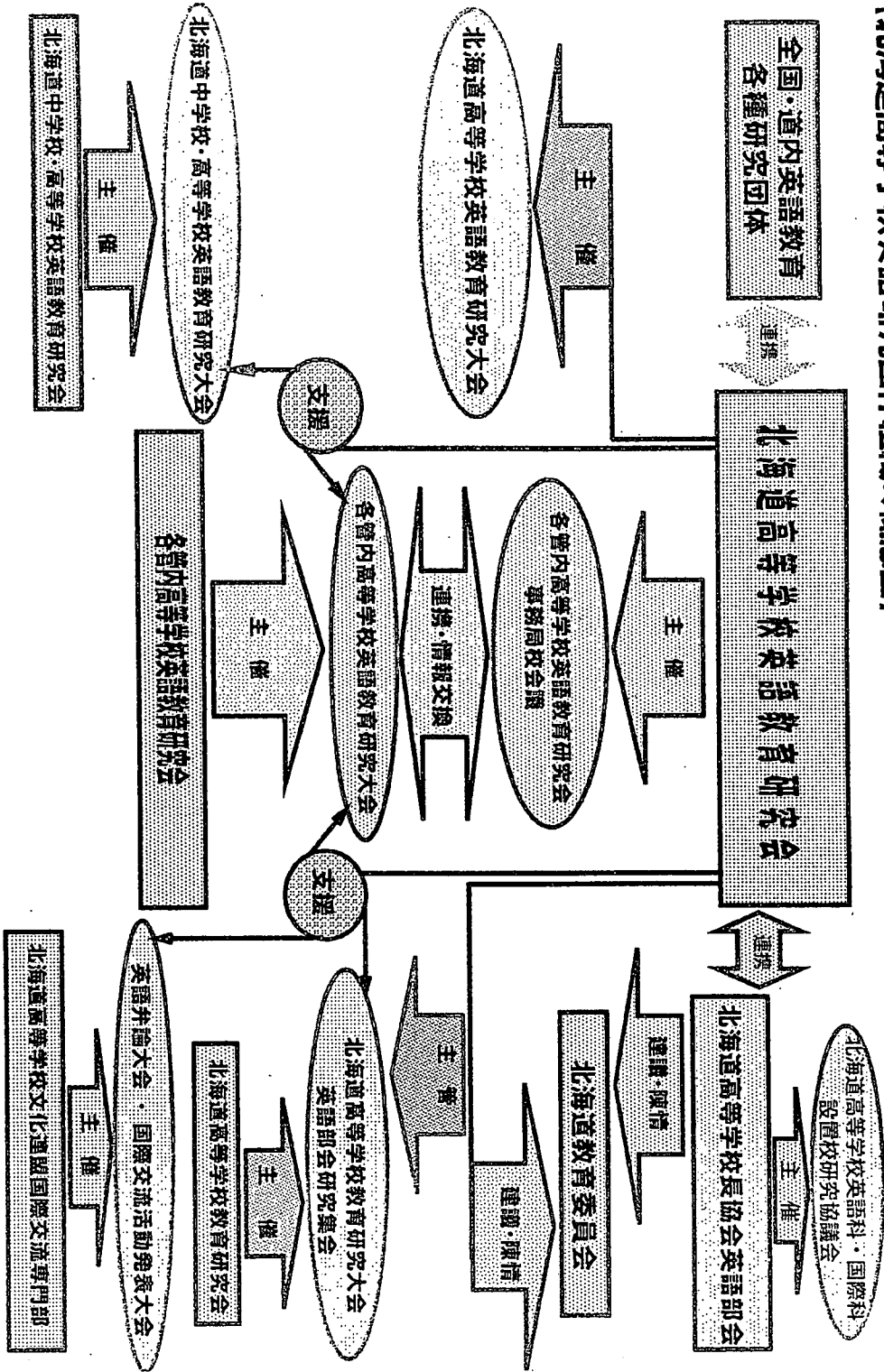
2 加盟校

	学 校 名 [校長名] 学科・コース	所 在 地 電話番号・Fax番号
1	北海道札幌国際情報高等学校 [牧野 篤] 国際文化	001-0930 札幌市北区新川717番1 Tel 011-765-2021 Fax 011-765-2022
2	北海道室蘭滑水丘高等学校 [継田 昭博]	051-0034 室蘭市増市町2丁目6番16号 Tel 0143-23-1221 Fax 0143-23-1746
3	北海道千歳高等学校 [遠藤 龍一] 国際教養	066-8501 千歳市北栄1丁目4番1号 Tel 0123-23-9145 Fax 0123-23-2742
4	北海道旭川北高等学校 [釣 昭彦]	070-0901 旭川市花咲町3丁目 Tel 0166-51-4620 Fax 0166-51-2818
5	札幌静修高等学校 [大橋 豊] 国際科	064-0916 札幌市中央区南16条西6丁目2-1 Tel 011-521-0234 Fax 011-511-9008
6	北星学園女子高等学校 [浅里 慎也] 英語	064-8523 札幌市中央区南4条西17丁目2-2 Tel 011-561-7153 Fax 011-561-7627
7	追愛女子高等学校 [福島 基輝] 英語	040-8543 函館市杉並町23番11号 Tel 0138-51-0418 Fax 0138-51-7150
8	旭川藤女子高等学校 [櫻庭 弘子] Universal Learning コース	070-0901 旭川市花咲町6丁目 Tel 0166-51-8125 Fax 0166-59-2268
9	北海道札幌稲北高等学校 [山田 英二]	006-0860 札幌市手稲区山口254番地 Tel 011-694-5033 Fax 011-694-5074
10	北海道札幌北丘高等学校 [藤田 高嶺]	007-0881 札幌市東区北丘珠1条2丁目589 Tel 011-782-2911 Fax 011-782-8370
11	北海道根室西高等学校 [前田 豊]	087-0025 根室市西浜町4丁目1番地 Tel 0153-24-2901 Fax 0153-24-2961
12	札幌聖心女子学院高等学校 [田口 保子]	064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号 Tel 011-611-9231 Fax 011-612-0980
13	札幌創成高等学校 [武田 洋子]	001-8501 札幌市北区北29条西2丁目1-1 Tel 011-726-1578 Fax 011-726-7542
14	北海道鹿追高等学校 [松本 徳幸]	081-0213 鹿追町西町1丁目8番地 Tel 0156-66-3011 Fax 0156-66-3012
15	北海道函館中部高等学校 [黒田 信彦]	040-0012 函館市時任町11番地3号 Tel 0138-52-0303 Fax 0138-52-0305
16	市立函館高等学校 [日向 稔]	040-0002 函館市柳町11番地5号 Tel 0138-52-0099 Fax 0138-52-9955
17	北海道滝川西高等学校 [阿部 敏]	073-0044 滝川市西町6丁目3番1号 Tel 0125-24-7341 Fax 0125-24-7342
18	北海道登別明日中等教育学校 [菅原 行彦]	059-0016 登別市片倉町5丁目18番地2 Tel 0143-85-0351 Fax 0143-85-0353

3 全国英語科・国際科高等学校長会

- ・理事長校 神奈川県立横浜国際高等学校
- ・常任理事校(本道関係のみ) 北海道札幌国際情報高等学校
- ・地区ブロック理事校 北海道札幌国際情報高等学校

【北海道高等学校英語研究団体組織の概念図】



2 参考文献

平成21年度 北海道高等学校英語教育研究会（高英研）役員及び講師委員名簿

顧問	山口 茂、佐藤 弘、東永親、中川文夫、浅井武治、市川元則、宮地良一、久富和栄、櫻田 顯、佐々木美喜雄、深澤宗明、岡田義明、佐々木茂文
----	--

	役職	氏名	職名	学校名		役職	氏名	職名	学校名
	会長	牧野 篤	校長	札幌国際情報	18	幹事	丸山由之	教頭	虻田
1	副会長	遠藤龍一	校長	千歳	19	"	谷昭憲	教頭	鷗川
2	"	宮前邦夫	校長	千歳北陽	20	"	真鍋真一	教頭	本別
3	"	瀬戸正	校長	石狩南	21	"	吉村裕彦	教頭	中稔津
4	"	釣晴彦	校長	旭川北	22	"	飯田知男	教頭	程津
5	"	高田三夫	校長	海星学院	1	講師委員	手塚茂也	教諭	札幌南
1	常務理事	山岡正司	校長	札幌東陵	2	"	杉山賢一	教諭	札幌手稲
2	"	田口保子	校長	札幌聖心女子	3	"	木村純一郎	教諭	札幌国際情報
3	"	竹内和男	校長	函館稜北	4	"	中丸希之	教諭	札幌国際情報
4	"	藤田榮	校長	長万部	5	"	鈴木猛雄	教諭	野幌
5	"	佐藤嘉典	校長	寿都	8	"	森田裕	教諭	大森
6	"	高橋 誠	校長	岩見沢西	7	"	辻 歩	教諭	千歳
7	"	福井利雄	校長	葵 深	8	"	太田 純	教諭	北 庄 島
8	"	斎藤純一	校長	豊別存願	9	"	片桐 昭	教諭	札幌開成
9	"	宮田 明	校長	静 内	10	"	稲毛知子	教諭	札幌開成
1	監事	伊藤一正	校長	浜 益	11	"	三角 樹	教諭	札幌啓北高森
2	"	貞淵 大	校長	古 平	12	"	中川 浮	教諭	立命館 屋 祥
1	理事	岩本 隆	校長	札幌開成	13	"	今井 人	教諭	函館 中 部
2	"	山形 恒 則	校長	森	14	"	岩田 哲	教諭	函館 中 部
3	"	阿部 正 行	校長	奥 尻	15	"	高西 貞 幸	教諭	函 館 西
4	"	小林 忠 雄	校長	洞 樞 商 業	16	"	吉川 直 生	教諭	函 館 稜 北
5	"	瀧田 和 宏	校長	共 和	17	"	秋 葉 浩 之	教諭	滝 川
6	"	外川 藤 博	校長	風 遼	18	"	藤井 亜 希 子	教諭	旭 川 東
7	"	阿 部 敏	校長	滝 川 西	19	"	松 井 徹 朗	教諭	旭 川 北
8	"	松 永 務	校長	増 毛	20	"	川 端 一 正	教諭	旭 川 北
9	"	橋 本 文 則	校長	枝 幸	21	"	渡 辺 勇 剛	教諭	旭 川 北
10	"	坂 俊 光	校長	紋 別	22	"	原 徳 之	教諭	上 川
11	"	小林 雄 二	校長	興 部	23	"	佐々木 亮 介	教諭	北 見 北 斗
12	"	竹内 敏 治	校長	厚 真	24	"	山 崎 秀 樹	教諭	清 里
13	"	細川 裕 可	校長	日 高	25	"	山 神 奈 子	教諭	帯 広 柏 稜
1	幹事	増田 雅 彦	副校長	札幌西	26	"	千 塚 澄 人	教諭	帯 広 三 桑
2	"	板 東 真 一	副校長	有 明	1	事務局 長	榎 本 敏 生	教頭	札幌国際情報
3	"	林 裕 司	副校長	北 庄 島	2	事務局 次 長	池 田 文 子	教諭	"
4	"	伊藤 芳 明	教頭	札幌月寒	3	事務局 員	船 本 龍 一	教諭	"
5	"	毛 内 嗣 史	教頭	札幌丘珠	4	"	瀬 戸 博 文	教諭	"
6	"	片 岡 晃	教頭	千 歳	5	"	清 野 明 彦	教諭	"
7	"	丸 山 年 民	教頭	恵 庭 南	6	"	柴 田 良 範	教諭	"
8	"	久 保 田 法 順	教頭	札幌平岸	7	"	森 康 成	教諭	"
9	"	藤 川 賢	教頭	函 館 西	8	"	谷 川 敬 一	教諭	"
10	"	河 合 宣 孝	教頭	市 立 函 館	9	"	木 村 純 一 郎	教諭	"
11	"	石 見 清 孝	教頭	江 差	10	"	松 橋 庸 子	教諭	"
12	"	青 木 秀 司	教頭	岩 内	11	"	酒 井 優 子	教諭	"
13	"	吉 森 光 敏	教頭	岩 見 沢 西	12	"	中 丸 希 之	教諭	"
14	"	菅 原 浩	教頭	旭 川 北	13	"	高 塚 み ち 穂	教諭	"
15	"	宮 上 秀 仁	教頭	豊 富	14	会 計	加 納 諭	事務 長	"
18	"	岩 田 一 郎	教頭	遠 軽	15	会 計	平 沼 秀 洋	事務 主 任	"

## 参考資料4

平成20年度 北海道高等学校英語教育研究会

## 第2回セミナー『授業力向上ワークショップ』PR文

期日：平成20年8月12日(火)

会場：北海道札幌丘珠高等学校

## 平成20年度高英研セミナー 講座一覧

	講座番号	講師名	講座名
午前	①-1	松井 徹朗	訳読のない英語の授業 — 英語で英語を理解させる授業 — — communicative grammar teaching using the target language —
	①-2	中川 淳	英語を楽しく教える～実技科目としての英語授業の再構築2008バージョン
	①-3	木村純一郎	DEBATE 101 (午前の部・午後の部)
	①-4	鈴木 猛雄	英語教育の一つの手法
	①-5	武田 久	単語小テストでの一工夫
	①-6	稲毛 知子	自律学習を可能にする日々の仕掛け
	①-7	手塚 茂也	限られた時間の中での教材提示から生徒の自主性を活かした定着までRead & Look Up→Shadowing / Repeat After Me→Back Translation
	①-8	今井 康人	音読・暗写を軸とした授業で変わる英語教育—ラウンドシステム進化編・英語科のチームワーク作り・これからの英語教育が目指すべき方向は—
午後	②-1	川端 一正	訳読のない英語の授業 — 英語で英語を理解させる授業 — — What is the current situation? — ～「生」が勝負の投げ込み教材～
	②-2	原 徳之	『英国で考えたこと』を越えて・・・「使える英語」を目指して—How to improve the teaching of reading and writing with "communicative activities" in the textbook
	②-3	木村純一郎	DEBATE 101 (午前の部・午後の部)
	②-4	千葉 澄人	第1部「訳先渡し授業」をやってみました！ 第2部 その余剰時間でなにができるのか？
	②-5	岩田 哲	①英語Ⅱにおける読解力向上を目指す和訳中渡し授業と、+1サマリー・ライティング (授業のベースは音読・暗唱) ②隙間を埋める、4技能フル活用fun funベ
	②-6	片桐 徳昭	Sustained instruction via English by JTEs enhance students' exposure to English
	②-7	吉川 直生	Making the Recipe Work—Working towards becoming a master chef すぐれた授業アイデアのアレンジ法
	②-8	藤井 亜希子	英語が嫌いな生徒でも、生き生きと活動できる英語指導実践
	②-9	杉山 賢一	授業の小技～単語力と速読力の向上を目指して

5 採択科目

平成20年度第2回高英研セミナー「授業力向上ワークショップ」アンケート結果 2008.9.8

課程	学 科			
学 定	普通	総合	理 学	工 学
全	74	4	4	4
108	2	74	4	16

学 級 数	教 員 数			
4～6級口	7級口以上	10年未満	10～20	20～30
36	32	35	42	45
				12
				1

年 齢		性 別	
20代	30代	40代	50代
19	56	30	8
			54
			43

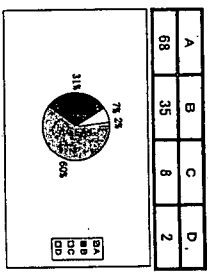
担 当 科 目				
英語 I	英語 II	OCI	OCII	リーディングライティング ※その他
72	60	47	4	42
				36
				20

※ その他  
 英語文化、LL、速読英語(3冊)、リスニング、応用英語(2級)、英語読解(2級)、Media Studies I、  
 基礎ソング英、英語作文、ロシア語、英語読解(文法)、生活英語(2級)、BS英語、総合英語I、総合英語II、  
 読解、英語 Basic、外国語印、特選クラス英語読解 異教対訳、自己取組。

1 セミナー

1 開催時期は適当でしたか。

もう少し早くても良かった(7月下旬から8月上旬)、  
 ちょうど良い(総合時期にかた)、  
 良くない(総合時期を避ける)、  
 公共英語、道庁が取りにくい。



2 日程・課程の組み方は適当でしたか。

関係式の時間を短縮する(スピーチが長すぎる)、  
 1時間120分は良かった、  
 1日あたり40分で良い、  
 会場までのアクセスをHPに載せる、  
 (地下鉄の乗り換え案内(文庫印刷))。

II 調査

3 講座数16の設定は適当でしたか。

ちょっと良かった、  
 追加の1講座、  
 追加の1講座の資料ももらえるので良いです、  
 すべてを習得して良い、  
 もっと時間を短縮して欲しい、  
 さらに、もう少し追加できたら良かった、  
 もっと地方の先生を講師にして欲しい。

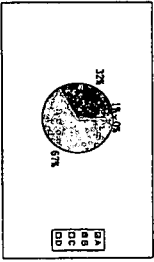
4 1講座の時間枠を最大120分としましたか。

ちょっと良かった(十分な講義と質疑応答ができた)、  
 もっと早くして良かった(情報交換の時間が少なかった)、  
 60分が適切である、  
 短くして(自分の時間を省いて)、受けられる講座数を増やせ、  
 長くした(自分の時間を省いて)、もっと早くても良い、  
 良いと思う(途中10分の休憩がほしい)。

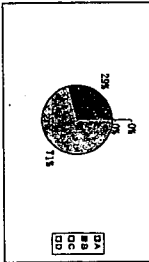
5 参加できる講座数を最大2つまでとしましたか。

2コマで良かった(講師の話をゆっくり聞けた、  
 質疑応答ができた)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)、  
 1コマは短かった(内容を十分に聞けなかった)。

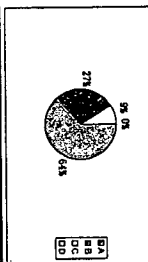
A	B	C	D
75	36	1	0



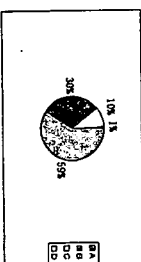
A	B	C	D
73	30	0	0



A	B	C	D
72	31	10	0



A	B	C	D
67	34	11	1



6 開催案内の周知方法や受付期間は適当でしたか。

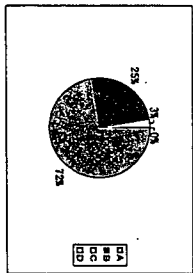
松竹で文庫を回収する日数を考慮して、もう少し期間を長くしてほしい。  
自分の参加する講座名が大念当日まで不明である。方向をもう少し早くしてほしい。  
丘は真夜へのアクセス方法を教えてほしいかった(図書館の地下鉄駅やバスの乗換)。

A	B	C	D
81	28	4	0

7 それぞれ第3希望まで申し込んだの先着順としましたが適当でしたか。

第3希望までの先着順が良い(先着順であることを周知徹底させる)。  
第3希望までの先着順が良い(先着順をなくす)。インナーネット(IPN)による人数制限は良かった。希望定員を改め、第1希望にする(人数制限をなくす)。希望通りにならなかったけど、たいへん勉強になった(全部の資料をもらえた)。  
先着順申し込みなら、学校単位でなく個人申し込みにしたい。  
学校単位で申し込む場合、担当者次第で取りまわが速くなるので、先着順は不公平になる。希望定員をもっと前早く返してもらわないと、先着順で希望する講座の申し込みができない。

A	B	C	D
82	28	3	0

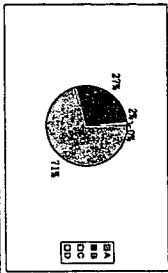


Ⅲ おたがが参加した「ワークショップ」

8 今後の指切りや授業改善に役立つ充実した内容でしたか。

とても参考になった。今後の教材開発に役立てたい。希望した講座はすべて申し込みだった。第3希望の講座は希望しなかった。  
今後の授業に活用したい。

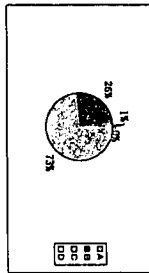
A	B	C	D
79	30	2	0



9 教材・資料・プリントなどが適切で参考となりましたか。

多すぎてまじまじと見ないけど、持ち帰れるのは良い。

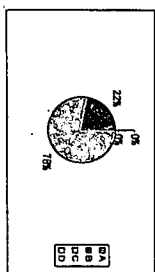
A	B	C	D
82	29	1	0



10 参加した講座の参加者人数は適当でしたか。

もう少し少ければ、100名程が活動になる。

A	B	C	D
88	25	0	0



IV 今回のセミナーには、主にどのような目的で参加されましたか。

- 授業力の向上を目的に参加させて頂きました。(18件)
- 自分の授業改善に役立てるため、ノウハウを共有するため。(45件)
- 生徒の英語学習に対する興味、関心を引き出すためのノウハウを学習に実践したいと思いましたが、参考知識を得るだけだけでなく、生徒のモチベーションを高めようとする授業に取り組んで、授業改善を図りたいと思っています。
- 先生の礼節での英語のabstracを得る、興味を持ってました、今迄、日にたか活動(3分)中心の授業が主でしたので、多くの英語教師を見て、自分の授業のやり方の改善にしたいと思いました。
- 現在の(最新の)情報を知るため。(3件)
- 本邦の英語教育の現状を知りたいため。
- 他校の英語教師の授業を見たいため。
- 他校の英語教師の授業を知るため。(3件)
- 校内での英語教育の現状を知る。(3件)
- SEI-111に対してどの程度理解が深まったか。
- 今年度、勉強でも他機関で参加できなかったため。
- 英語教師の授業を参考していたので、その勉強になるものを見たいため参加しました。M先生、Y先生の勉強あふれるノウハウを自分用に工夫し、授業をするに役立てたいです。夏休み(後期)に五つで授業をしてほしいです。本校では、ワンマン授業で取り入れてほしいです。
- 担任指導の具体的な方法について、多く学びましたから。
- 英語教育法の更新。(2件)
- 知っている知識の更新のため。
- 今年度は英語講習の先生方がセミナーを兼ねて来られたから。
- 情報交換。(7件)
- 英語講習のスキルアップ。(3件)
- 音楽指導の具体的な方法について、多く学びましたから。

V 今回のセミナー開催の準備段階、当日の運営及び全般について、ご意見を伺っています。ご意見がございましたらお聞きください。

(1) 運営

- 議題決定や発表順序がスムーズにいくようにしたい。
  - 日程的に十分な準備が必要、また早い段階で議題の発表内容がわかっていたのは、とても良かったと思います。
  - おりがごとくでした。とても満足しています。(8件)
  - 遠隔地から自分の遠征まで事務局関係の先生方がお気づきください。(16件)
  - 各参加者の数や人口の提示は、議題名の他に開催の番号を聞き取ってほしいです。また、日程と議題名、発表者の名前を同時に、冊子に印刷して配布してほしいです。(2件)
- (2) 開催内容
- 参加者の加入人数のばらつきは仕方ないと思いますが、自分の希望とは違ったものだったのは残念です。
  - 30分の発表時間があつたのは、とても良かったです。
  - たいへん勉強になりました。(7件)
  - 資料をたくさんいただいたので、体系的な整理からどんどん使わせてほしいです。(2件)
  - 講師の方々の熱心な発表が素晴らしいと感じています。多くのことを学べたので、ご期待に答えて活用したいと思います。

(3) 開催形態

- 対面、ネットのどちらか一方に絞る必要がある。対面は口頭発表はいいですが、各自の準備や発表の準備もネットの方が楽だと思います。ネットの方が発表の準備が楽で、発表の準備もネットの方が楽だと思います。対面は口頭発表はいいですが、各自の準備や発表の準備もネットの方が楽だと思います。対面は口頭発表はいいですが、各自の準備や発表の準備もネットの方が楽だと思います。

(4) 講師陣

- 講師陣の先生、及び講師の先生が、大変お疲れ様でした。発表された先生が参加された先生方に「おみやげ」を配付していただくことを願っています。
- すでに申し込みの人数が、正直いって足りなかった。20名くらいでいい。

(5) その他

- 対面に近い発表したい方はいくらもいるから、今年も10名くらいはいい日程で開催してほしい。
- 交通地図について、質問は多いので、事前に配布してほしいと思います。
- 開催地までの距離が、クルマでも遠いから、開催地までの距離を短くしてほしいです。
- 英語講習のノウハウを自分用に工夫し、授業をするに役立てたいです。夏休み(後期)に五つで授業をしてほしいです。本校では、ワンマン授業で取り入れてほしいです。
- 発表者の先生、及び講師の先生が、大変お疲れ様でした。発表された先生が参加された先生方に「おみやげ」を配付していただくことを願っています。

VI 次回のセミナー開催に向けて、ご意見を伺っています。ご意見がございましたらお聞きください。

(1) 開催内容

- 先生へのセミナーは、とてもおもしろかったです。6名くらいでいいと思います。少数開催で良かった。
- どの発表者の発表も、いい発表でした。M先生のプレゼンテーションが非常に面白かったです。発表時間も、とても良かったです。質問も、とても良かったです。
- ネットでも発表できるだけの準備が、必要だと思います。当日は、ネットでも発表したいです。当日は、ネットでも発表したいです。当日は、ネットでも発表したいです。
- 様々な英語教師を知るが、対面開催だと、準備も大変だと思います。参加者の数は、ネットでも発表できるだけの準備が、必要だと思います。当日は、ネットでも発表したいです。
- ネットでも発表できるだけの準備が、必要だと思います。当日は、ネットでも発表したいです。
- ネットでも発表できるだけの準備が、必要だと思います。当日は、ネットでも発表したいです。

(2) 開催日程

- ・できれば各座3講座は受講したかつたです。1講座の時間をもう少し短くする。または、終了時間を遅くするなどしてほしい。
- ・1講座の時間を短くし、その分多く講座を取れるといいと思う。
- ・1日でも構わないのでいいの受講した内容でした。
- ・専攻領域で履修単位が足りないところがある場合、選択のとき履修の優先になるかと思いました。
- ・できるだけ多くのワークショップに参加できると思います。1コマを多少短くして3つくらい見ることができればと思いました。

・案内の添削で講師の所属する学校システムを知りたい。聞くならわかるからそのかまもありませんが……)。どういう生徒に併せている授業なのかは選択の状況にもなると思います。

・できればもっと多くの講座が受けたいと思います。1コマの時間を少し短くして、もっと講座を受けたいので短くして、参加したい(午前と午後を別々の講座で開講してほしい)という声も聞かれました。大変ありがとうございます(感謝です)。

・専攻領域の変更はされたのですか？ 見つけられませんでした。変更をもう少し早くして欲しいので行きたいです。

・どれも興味のある講座ばかりです。日程を2日間くらいにしても多くの講座を取れるようにしていただければ。

- ・お言葉ですがワークショップ(面接を受けるAcademicなど)を短くしていただけたらいいと思います。
- ・3コマくらい講座を取ることができればいいと思います。
- ・今回と同じような形で開講してほしいです。

(3) 講師陣

- ・できれば、自分そのものを発見したいものです。
- ・今回のように、金銭・金銭で負担されては余念なく参加して欲しいです(できる限り)。今回のように、金銭・金銭で負担されては余念なく参加して欲しいです(できる限り)。
- ・2年ほど同じ講座が多いようなので、新しい人を入れてはどうでしょうか？
- ・いわゆる「居残り講座」で、参加されている先生方の現任に付かれています。「立ち歩かぬい」(居残り講座)は「私語をさせない」(英語)を希望しています。
- ・いつも魅力的な先生ばかりです。講師陣にも大変感謝していますが、今年も大変楽しみにしています。
- ・今年もたくさんの優れた先生にお願いしたいです。ありがとうございます。

(4) その他

- ・今年も是非参加したいと思っています。(8時)
- ・このセミナーに出席を促して、その出席も促したいと思っています。
- ・全員参加が望ましい。このセミナーが様々な発展して、出席を促すことを望みます。
- ・学びと出会い、最高の思い出になりました。感謝申し上げます。
- ・今年度学んだことをすべて多く実践して、自分を向上させたいです。
- ・5.5時間の授業をすべて活用できるものにしたいです。例えば、もっと多くの教材をemailでダウンロードできるようにする等。
- ・ワークショップで使用する資料の回数を多めに用意するか、後で資料をCD-ROMで送付するか、資料を印刷してワークショップできるようにする等の準備がほしいと思います。
- ・希望にかかわった先生方、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

平成20年度第2回高英研セミナー「授業力向上ワークショップ」

アンケート

2008.11.2

- ※このアンケートは、次のセミナー開催に役立てるために行うものです。ご協力をお願いします。
- ※所属は、
- A: 履修している、B: おおむね満足している、C: あまり満足していない、D: 満足していない
- の基準で回答してください。
- ※回答された先生方の所属校の所属及び個人の情報についてはお答えください。

講座	学 科	学 級	履修1学期の履修科目(履修していない)
金・英	英語・総合・外国語・専門・専攻領域	0-9年次	4-6年次・7年次以上
数	20代・30代・40代・50代(以上)		
性別	年 齢		
性別	性 別		
担当科目(履修していない科目を○で囲んでください。その数は履修科目数を超過してはいけません。)			
・英語1	・英語II	・OCE	・リーディング
・その他			・ライティング

<以下は、A・B・C・Dのみ、すれは空欄か○で囲み、ご意見があれば記載ください。>

1 セミナー開催時期等についてお答えください。(特にC・Dの場合、変更のためのご意見を記入してください。)

質問事項	満足度	意見欄
1 開催時期は適切でしたか。	A B C D	
2 日数・時間・場所が適切でしたか。	A B C D	

2 質問の設定等についてお答えください。(特にC・Dの場合、変更のためのご意見を記入してください。)

3 講座16の満足度は適切でしたか。	A B C D
4 1講座の時間帯を120分としましたが適切でしたか。	A B C D
5 その他、満足度はどの程度でしたか。	A B C D
6 履修案内の通知方法や受付期間は適切でしたか。	A B C D
7 それぞれ履修希望申し込みの先着順と申し込みが適切でしたか。	A B C D

3 あなたが参加したワークショップ(講座)についてお答えください。

B 今後の指導や授業改善に役立ちましたか。	A B C D
B 教材・資料・コンテンツなどが適切でしたか。	A B C D
10 その他、講座の参加人数は適切でしたか。	A B C D